

第6次高浜市総合計画推進会議（第3回） 会議録

日 時	平成23年10月6日（木）午後7時～8時40分		
場 所	高浜市役所 第2会議室（4階）	傍聴人数	16名
出席者	委 員	中川幾郎、小笠原芳夫、中川勝利、竹内一仁、鈴木康博、神谷環光、竹内亨弘、井野代司彦、杉浦盛仁、古橋知美、神谷通夫 (11名出席)	
	事務局	地域協働部長 加藤元久 地域政策グループ リーダー 岡島正明 同 主 査 井野昌尚 同 主 査 鈴木明美 同 主 査 山本久美 同 主 事 岩崎和也 同 主 事 中村彩 (7名出席)	
次 第	1 会長あいさつ 2 議題 1) 「第6次高浜市総合計画推進会議からの提言」について 2) 高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方について ①第5回（10月12日）「まちづくりシンポジウムの企画案を考えよう」 ②第6回（11月）「総合計画を協働で実行しよう（1）」 ③第7回（12月）「総合計画を協働で実行しよう（2）」 3 その他		
資 料	資料1：第6次高浜市総合計画推進会議（第2回）会議録 資料2：第6次高浜市総合計画の推進に向けて（提言）【案】 資料3：「第6次高浜市総合計画推進会議」からの提言【案】 資料4：高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方（イメージ） 資料5：高浜市の未来を創る市民会議 第5回プログラム【案】		

1. 会長あいさつ

第2回の会議録については、委員の皆さんにご確認いただき、書面表決ということにさせていただきました。委員の皆さんからの意見を踏まえて手直ししたものを、資料1として配布されているので、よろしくお願ひしたい。

2 議題

1) 「第6次高浜市総合計画推進会議からの提言」について

各委員より、資料3『「第6次高浜市総合計画推進会議」からの提言【案】』を基に説明。

- 会 長：
- ・前回の推進会議で、事務局より、10月中旬から11月中旬には、次年度の予算編成の時期に入ると説明があった。そこで、この半年間の総合計画の取組状況について、市民会議の各分科会において、市民目線で点検・確認し、現状や課題を踏まえた上で、もっとこういう風にしたら目標達成に近づけるのではないかと、といったようなアイデアを提言としてまとめていただきたいということをお願いさせていただいた。
 - ・各分科会からの提言内容や想いを、1～2分程度で発表していただき、その後、「3. 課題の対応策」、「4. 対応策のしぼりこみ」についてご意見・ご提案をいただき、提言内容をより良いものにしていきたい。
 - ・修正があった場合、この場で修正し、市長へお渡しすることとする。
- 委 員：
- ・財政分科会からは、「市の財政状況を学びあおう！」ということで、提言をさせていただく。
 - ・予定していた分科会の開催が中止になってしまったため、分科会メンバーの皆さんには提言が行き届いていないところでの私の発言になる。
 - ・市・行政と関係や関心を持たない市民に対し、どうアプローチしていくかということで議論をいただいた。本当に市の財政を心配していただける人をいかにつくるか、堅い勉強会では何人の市民の方にご参加いただけるのかということで、まず、興味を引く1つの材料として、“市の拠点へ高浜市の借金時計（デジタル）の設置”をするというアイデアが出た。
 - ・どこの自治体でも、これから財政は厳しくなっていく。45,500人という人口の中で、少しでも市民のご理解をいただくようなアクションを具体的に今から練っていききたい
 - ・行政が市の財政内容を説明していただくのも良いし、私たちが分かる範囲で説明するのも良いと思う。まず、1人でも多く、興味を持っていただくということを軸において、提言の内容とした。
- 委 員：
- ・自治推進・協働分科会のテーマは、「地域活動やまちづくりに参加してくれる人を増やそう」ということで決めた。
 - ・目指したい姿としては、自治基本条例の前文を引用して、私たちの愛するまち高浜市を未来へとつなげていくために、一人ひとりが持っている

力を出し合い、「住んでよかった」と思える持続可能な活力ある地域社会の実現を目指すこととした。

- ・課題として、「まちづくりに参加する意義・魅力がもっと伝わったら良いな」、「誰か声をかけてくれたら参加しやすいんだけど」、「子どもたちと一緒に参加できる活動がたくさんあると良いな」、「どんな地域活動が行われているのかもっと知りたい」など、たくさんの意見が出た。
- ・これらの意見をグループ化しながら、具体的な解決のアイデアを出し合い、まとめたものが、別紙のA3の用紙となる。キーワードとしては、丸で囲んでいる「きっかけづくり」、「情報発信」、「参加のメリット」、「地域団体間の交流」、「参加しやすい環境づくり」、「仲間づくり」、「気運の醸成」、「地域活動に参加しやすい環境」が挙げられた。
- ・実際の取組みの提案として、「みんなが集まれる居場所をつくり、地域活動へつなげよう」、「高浜市年間イベントカレンダーの作成など、地域活動の情報発信をしよう」、「地域活動と活動参加者のマッチングサイトを立ち上げよう」、「1人1ヶ月1時間地域活動に参加しよう運動を実施しよう」、「まちづくりポイント制度を創設しよう」、「子どもが企画・運営できる事業を実施しよう」の6つを挙げさせていただいた。
- ・仲間づくりを通して、楽しく、気楽にまちづくりに参加してもらえる取組みを、行政と一緒にやっていきたいというのが、分科会メンバーの皆さんの思い。

委員：

- ・教育・子ども分科会では、まず、「1. 目指したい姿」として、地域の資源である自然や文化、産業などを十分活かして、地域で子どもを育成するという姿、それが小さい子どもから高齢者まで関わることのできる形の姿が、目指す姿ではないかという話をした。
- ・現状と課題として、地域の若い世代は、「関わりたいが、どうしたらいいのか」という方が多いので、そういった方たちがうまくつながるよう、活動の輪を広げたい。教育というと学校中心になるが、幼保など小さいころから教育や地域の方に携わっていくことが良いのではないか。
- ・対応策では、「関わりたいけどきっかけがない」、「できるだけ小さいうちからいろんな人に関わって体験をしてもらいたい」ということで、学校や地域をつなぐ関わりが必要だと思う。例えば、地域のコーディネーターやファシリテーターが仲介役になって、連携を深めるようなことが出来たらいいのではという意見があった。
- ・教育は子どもから高齢者まで多くの人々に触れ合っていてやるものであり、誰かが教えるというわけではなく、高浜市ならではの資源を使って、体験をするようなものが基本になるのではないか。また、いろいろ活動するにあたり、大人が参加しやすいイベントなどを充実させていきたい。アクションプランも見たが、教育基本構想策定委員会など別

の委員会でプランが具体化されるので、それに沿って進めていきたい。

委員：・教育、生涯学習、子育て・子育ての3つの分科会が一緒になったが、それぞれの立場で皆さん一生懸命考えておられる。では、何が足りないのか。子どもや人間を中心としたつながり、それぞれの皆さんの活動のつながりがうまくいってなかった。そのため、拠点、組織など点で活動されているところを線で結ぶことが必要ではないか。そうすれば、相乗効果があり、さらに、大きな活動に繋がっていく。お互いに良いところ、悪いところを学びあいながら、やっていければ、それが1つの点から線、線から面というような広がりが期待できる。教育・子ども分科会からの提言の取組みのしぼりこみとしては、つながり・連携不足を解消するということを統一することだと思う。

委員：・産業・観光分科会では、「コミュニティビジネスの定義、用語などの認知が低い」、「マッチング（困り事の内容やそれをどう解決するか、求める人・提供できる人）の仕組みが確立されていない」、「コミュニティビジネスを立ち上げる手法や支援策など、敷居が高いのではないか」、「情報の収集・保管・発信の仕組みが不十分」、「民間業者との競合の心配」、「コミュニティビジネスへの発展の可能性が感じられても後継者不足で継続性に不安があるのではないか」などの意見が挙げられた。

・それをどのように解決していくのかということで、用語の定義やマッチングの仕組みをつくるなど、点から線に結ぶというようなことが出た。

・コミュニティビジネスというのは、困り事や皆さんの中から自然発生的に出てくるのが1つの発生の仕方だと思うが、それを待っていると先に進まない可能性があるので、ヒントを与えて、そういったことに共感する方に集まっていただき、コミュニティビジネスを立ち上げたらどうか。

・例えば、余剰野菜がもったいないという意見から「市民の皆さんの手で漬物など、加工して販売できないか」や、「身近な不要なものを使えるものに変身させたり、商品化できないか」などが挙げられた。また、ワンデーシェフをやりたいという意見もあったが、市民の困り事をシェフをやりたい方々に活躍していただける場がないかということで、「アレルギー対応の給食が求められている少数ニーズの皆さんに、食に関心のある主婦から提供できないか」といった意見も出た。ある程度具体的なものを提案し、それに共感していただき、1つのコミュニティビジネスのモデルを立ち上げて、発展させていき、それが、1つの産業の地域ビジネスとして発展していかないだろうかということで話を進めた。

・財政分科会から、高浜市の借金の話があったが、これを解消するには、やはり、収入を上げていかなければならない。そのため、企業誘致や、高浜市の企業を元気にするということに関しては、これとは別にやっていかなければならない。

- 委員：
- ・第5次総合計画がキックオフしてまもない平成15年ごろは、環境の問題が非常にクローズアップされていた。そうした中、高浜市では真っ先に環境の問題に取り組み、愛知県内でも名古屋市よりも早い8番目にISO14000に認証された。市民全員が参加して、環境に意識を持った行動を取っており、その行動の柱はごみの減量だった。ごみの減量は、全員、毎日が対象になる。第5次総合計画から計画しているごみの減量を、さらにレベルアップしていかうではないかということが、提言の柱。
 - ・今回この提言の中では、ごみの排出量の現状値556gを2013年までに400gにし、156g減量するとしている。さらにこれが、もっと進化して、400gから300gくらいまで減らすということもこれからの取組みかと思っている。
 - ・第5次総合計画スタート当時は、1人1日あたりのごみの排出量は658gだった。そこから、90g低減しようという活動が、第5次総合計画。この目標は21年度に達成され、今回記載されているように556gまでたどりついた。これをさらにレベルアップして、2013年までにごみの量を減らすため、新しいごみ分別便利帳を今年度中につくり、それを活用して皆さんに意識づけと責任感を持って進めるようにしていきたい。年内にはつくりたいが、単なるごみの減量ではなく、どういう工夫をしたらごみの減量につながるか、どのようなリサイクル法が適応されているか、高浜市の市民の行動のおかげでこういう風に成果が出るという指標を盛り込んだものにまとめ上げてつくっていききたい。
 - ・環境を考えるときには、市民全員のごみの減量がいろんな意味で有効に働くものだという事を取り上げた。
- 委員：
- ・防災・防犯、快適な都市空間分科会では、『「まちごと防災マップ構想」を進めよう』ということで、まず、目指したい姿として、例えば、地盤の高さや避難経路の案内、過去の浸水高といったものをまちなかに見える化し、皆さんの意識・関心を高めていきたい。
 - ・現状と課題として、ハザードマップなど紙媒体の情報は一度読んだらお蔵入りとなってしまうため、「この道路の高さは〇m」といった地盤高の表示に取り組むこととしている。
 - ・課題の対応策として、災害を風化せず、意識を喚起するために段階的に各情報の見える化を進めていきたい。誰もが分かりやすいように、設置の高さや形などに気を配りながら、例えば、電子柱に貼った方が良いのか、コンビニに貼った方が良いのかなど、考えて進めていきたい。
 - ・対応策のしぼりこみとして、つくって終わりではなく、効果的なソフト方策も合わせて考えていく必要がある。市民と行政が力を合わせて、できることから一步一步進めていきたい。
 - ・分科会の想いとして、情報伝達の仕組み・手段を整えようという声が出た

くさんある。災害時、電話や電気がストップしたらという不安を持ってみえると思う。まず、ハード面での整備が出来ると、とりあえず、安心につながると思っているので、やれるところから手をつけたい。

- 委員：
- ・地域福祉分科会では、「NEW ボランティア人の発掘」ということで、身近なところでどなたもボランティアをしているということを意識していただいて、つながりを深めていきたい。
 - ・現状・課題ということで、実際のボランティアということで活動の把握が出来ておらず、「まずはどんなボランティアが行われているのか知らないといけないよね。でも、その前に市民の方たちがボランティアについて、どんなことを思っているんだろう」、「どんな考えで自分たちは参加している・参加していないという人がいるのかな」ということで、まず、皆に参加していただくなら、まずそういったことを調べないといけないということになった。課題の対応策として、「わくわくフェスティバル」で福祉に関係する方たちがたくさん来ており、市民の方たちにも呼びかけている色々なイベントも行われるので、そこに来られる方を対象に、ボランティアについて、何かをやっている・やっていない、どんな考えを皆さんがもっているか、例えば、ボランティアと言ったら、どんな人を想像するか、自分がもし出来るんだったら、どういう風にやりたいかなど、アンケートを行いたい。現状が分かると、実際にボランティアに対しての言葉というのが、どれくらい皆さんに浸透しているかというのが分かると思うので、来年度に活動を反映させていくことが出来たらと思う。
 - ・もう1つは、チャレンジド（障がい者）に関する部分で、市民の方たちが障がい者の方たちとどのくらい交流を持つ機会があるのかということが、話に挙がった。地域でもイベントが行われているが、意外と地域でイベントをやっている、参加が出来ない、お誘いが来ないから行かないという部分もあるという話があり、「どうぞ」と言われても、障がい者の子を持つお母さんはなかなか行けないということだった。じゃあどうしたら行けるのか。普段からの地域のつながりがあり、隣に誰がいてということが受け止められているということが分かれば、行事に出て行けるのではないかと。スポーツイベントなどの機会創出と書いてあるが、そんなに簡単に実行できることではない。それをやる以前の地域のつながりを発掘し、見直して働きかけていきたい。
 - ・障がい者の方たちとの1つの縁になるかと思うが、11月19日に、授産所高浜安立主催で東日本大震災の教訓を活かした勉強会として、現地で手助けされていた方が実際に来られてお話をしていただけるということなので、そういう機会に他の分科会の方も参加していただきたい。人や地域とのつながりや人材育成、情報発信といったことでは、全体が繋が

っていると思うので、地域福祉にも良い知恵をいただいて、その中から何か高浜市で出来ること、高浜市民が協力し合ってつながりが持てるような働きかけが、また今後生きるようなもの出来たらと思う。

- ・地域福祉分科会からは、わくわくフェスティバルの1つの事業を軸に、福祉について、ボランティアについて、もう1度皆さんに呼びかけていくということと、市内にある福祉避難所を地域に根付かせていくということで、活動を続けていきたい。

- 委員：
- ・健康分科会では、「いきいき健康マイレージ事業」を積極的に進めていきたい。
 - ・健康マイレージについては、まだまだ認知が低い。これは、高齢者の方にいつまでも健康でいきいきとした毎日を送っていただくために、高浜市が始めた元気な高齢者を応援するための新しい事業。
 - ・大きく分けて福祉ボランティア活動と健康づくり活動の2つの活動がある。その内容は、今のところ、高浜市保健センターの活動に参加、たかはまスポーツクラブ主催の活動に参加、いきいきクラブ連合会主催の活動に参加、高浜市グランドゴルフ協会主催の活動に参加など、高浜市が認定する健康づくり活動に限ってということになっているため、もっと地域の方に使いやすい状態にしていきたい。男性の参加者が少ないということなので、男性が出席しやすい環境もつくってきたい。
 - ・課題の対応ということで、健康づくりのメニューもまだまだ少ない。もっと幅広く広げていきたい。

- 会長：
- ・各分科会からご報告いただいた。他の分科会に対してのアイデア・助言を交換し合うということで、順に考えていきたい。
 - ・まず、財政分科会からの提言についてはどうか。

- 委員：
- ・対応策のしぼりこみに、「まちの財政を学びあう勉強会」の開催が挙げられているが、自治基本条例に、積極的に情報を発信することが大切だと定めている。そこで、小学校区ごとなどで、地域に直接出向いて出前トークなど行ってはどうか。職員が直接地域に足を運んで、熱い想いを訴えていただくと、もっと浸透するのではないかと思う。

- 会長：
- ・自治推進・協働分科会からの提言についてはどうか。

(意見なし)

- 会長：
- ・教育・子ども分科会からの提言についてはどうか。

- 委員：
- ・各小学校区などおやじの会の活動はじめ、幼稚園・保育園・小学校までは結構手が入っていると思う。映画「タカハマ物語」では、中高生に切り口を当てているので、新たに中高生というくくりを一考していただくと幅広く、次の時代の高浜市を背負ってもらえる子どもたちが広がっていくのではないか。

- 委員：
- ・ボランティアの中でも、子どもの頃から地域でいろいろな経験ができる

場面があると、とても良いと思う。自治推進・協働分科会で、まちづくりに参加してくれる人を増やすとあったが、人を集めることは難しいことでもある。でも、そこに足を運んでいただき、いろいろな経験ができる企画をし、人が集まってくれば、力にもなる。そういった中で、子どもに関するイベントにつなげていきながら、ボランティアの育成ということにつなげていけたらと思う。協力し合いながら、出来たら良い。

会 長： ・別々に見てきたものが、“ボランティア”というものを通して、1つのつながりが切り口になるだろう。

委 員： ・人が集まって、やれることをやることがボランティアに繋がっているということ、一人ひとりに分かってもらえると、ボランティアを身近なものに感じてもらえると思う。

委 員： ・人を集めていろいろな企画をとということで、せっかく高浜市に住んでいるのに、瓦を宣伝するものが無いということで、洲崎公園（田戸町）で、「(仮称)瓦の里公園」を立ち上げようと思っている。地域の各団体にボランティアで材料を提供していただいたり、原画を南中学校の美術部に描いていただいたりした。高浜市の鬼瓦、波、海をテーマに、シャモットを使って道を作ろうと思っている。2年程で、地元の方で、お金がかからないような形でやりたい。

会 長： ・産業・観光分科会からの提言についてはどうか。

委 員： ・地域通貨というのを考えたい。将来的にはコミュニティビジネスという点で必要だと思っているが、制度上の問題があるかと思う。
・健康分科会からの力を借りながら、いきいきマイレージをそれに活用するというのも、1つの違う形でのマイレージとして使えると思うし、ボランティアでも使えると思う。横のつながりが出来たらと思う。

委 員： ・つながりということで、皆さんがたくさん意見をそれぞれ単独で考えられているが、こうした市民会議のような会があるといういろいろ繋がっていく。アクションプランでコミュニティビジネスという部分を考えられているが、産業・観光含め、映画「タカハマ物語」の制作など、協働事業としてやっている部分の中で、商標登録し、高浜市の中で1つの商標という形で広げるというのがあっても面白いのではないか。「瓦の里構想」にしても、皆さんが考えている構想にしても、例えば1つ商標にすれば、ビジネスにつながるということもあるのではないか。そういった連携もこうした会でやっていただければ良いと思う。

委 員： ・「夢のみずうみ村」の話が出たが、どういったものか。

委 員： ・山口県の介護施設の中では、デイサービスのように来たらあいさつで始まり、折り紙をやって、ご飯食べて、歌を歌って、帰るという型どおりの介護ではなく、いろんなことをやられている。折り紙をやる人もいれば、花札やトランプなど賭け事をやって、その施設の中の通貨をやりく

りしながら過ごすなど、サービスを受ける人がサービスを提供する人にもなるといったような形で、1つのまちのようなものが出来ている。そうした事業をされている先生が高浜市に講演にいらしたことがあり、再度その方を呼び、福祉企画グループがそういった構想を実施していくことになっている。

- ・本来、そういうことをコミュニティビジネスの1つとして捉えないといけないと思っているが、それは先の話になるため、もっと身近なことでコミュニティビジネスを興して、つなげていった方が早いのではないかとということで、提言の内容のようなことを挙げさせていただいた。

委員： ・おまんこ保存会というのがあるのだが、そこで毎年物販をやっている。お饅頭屋さんやせんべい屋さんにオリジナル商品が出ないかということでお願いしたが、時間が無く、来年以降になるということだったが、高浜市の産業は、瓦・鬼瓦だけでなく、瓦せんべいや鬼まんじゅうも1つの産業の活性化として取り入れていただければと思う。

委員： ・P.15に、高浜市のPR情報ということで、高浜市のB級スポットやB級品などについて書いてある。映画「タカハマ物語」を利用して、新しいビジネスを考えては、という意見もあるが、とりめしを使いながら、ちょっとした商品をつくろうということもやっている。商工会との連携も大事だと思うので、その辺りは行政にも期待している。

会長： ・環境・憩いの場分科会からの提言についてはどうか。

委員： ・「生ゴミや草木は乾かせば、かさが減らせる」というのは、かさが減ったらごみが減るということだと思うが、こういうことを、逆手にとってコミュニティビジネスにつなげないだろうか。連携が取れると思うのでよろしくお願ひしたい。

会長： ・防犯・防災、快適な都市空間分科会からの提言についてはどうか。

委員： ・翼まちづくり協議会では、防災マップをつくっており、町内会の皆さんにご協力いただき、倒れそうな壁があるところや細くて救急車が入れないような道路などを皆さんで探していただき、プラザに地図が貼ってあるのだが、そういったものもぜひ見える化に入れていただけると、いろんな意味で防災マップとして活用できるのではないかと思う。

委員： ・津波が意識されているが、もう1つ問題になると思うのが、液状化。高浜市は今、非常にたくさん新興住宅が建っているが、実は田んぼの上に建っていたりする。国土地理院などに、過去何十年前はどういう姿だったという写真があると思うので、そういうものもまち協や公民館で掲示していただけると便利ではないかと思う。

- ・シャモットが液状化には有効。産廃と言われるものも、土に変わるものになるため、そういった部分も地元の業者に勧めていただきたい。

委員： ・液状化に関しては、当然取り組んでおり、まず見える化をやろうという

ことが第一。これから、国からいろんなデータが出てくるので、それと照らし合わせながら、取り組んでいく。

- 会 長： ・地域福祉分科会からの提言についてはどうか。
- 委 員： ・具体的な施設名が出ているが、それはどうか。
- 委 員： ・福祉避難所というのが市内に3ヶ所あると聞いている。地域でそういったところをまず知っていただくということがある。
- 会 長： ・福祉避難所が3ヶ所あるとし、その後に括弧書きで、3ヶ所の施設名を入れたら良い。「対応策のしぼりこみ」にある「授産所高浜安立の主催で」はどうするか。
- 委 員： ・こういうことを実施するとお話があったので、知っていただくということを先に捉えてしまった。
- 会 長： ・「地域福祉分科会、防犯・防災分科会、福祉施設が共催」としてはどうか。
- 委 員： ・いきいき健康マイレージは高齢者中心ということだが、おやじ世代も入れていただけると、親子でも来るし、メタボ対策にもなるのではないか。
- 会 長： ・先ほど委員からもあったように、もっと互換性を広げていくということで、高齢者だけがポイントをもらえるのではなく、地域通貨として広げていくことを考えていくことも良いかもしれない。
- 委 員： ・これは介護予防のため、高齢者の元気な人が対象となっている。今、65歳以上となっているが、活発な事業にするには、それも必要だと思う。
- 委 員： ・福祉というところで、健康だけではなく、たくさんの方が関わられるようなものが提案できたら、幅が広がると思う。実際、健康づくり活動の方はすごく登録者が多いが、福祉ボランティアの方は登録者が少ない。
- 会 長： ・若い人がボランティアをやった場合でも、このマイレージと互換性があるという方が良いのではないか。ボランティア精神と言ったら、どこも一緒とおっしゃっていた。教育も生涯学習も福祉も。中身が違うだけ。
- ・提言書の鑑の文章についてはどうか。

(異議なし)

- 会 長： ・先ほど指摘のあった部分を修正して、市長へ提言書を提出する。
- ・事務局より、提言書提出後の流れを説明いただきたい。
- 事務局： ・本日の推進会議からの提言を受け、また、総合計画の半年間の推進状況を踏まえ、これから行政では、アクションプランの見直し、来年度予算の検討の作業に入る。頂戴した提言については、その際の参考にさせていただく。推進会議の皆さんには、当初予算の編成の目処がつく年明け1月ごろ、いただいた提言内容をどのように反映していこうと考えているのか、方向性や対応についてご報告させていただく。

2) 高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方について

①第5回(10月12日)「まちづくりシンポジウムの企画案を考えよう」

②第6回(11月)「総合計画を協働で実行しよう(1)」

③第7回(12月)「総合計画を協働で実行しよう(2)」

事務局より、資料4「高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方(イメージ)」、
資料5「高浜市の未来を創る市民会議 第5回プログラム【案】」について説明。

【質疑等】

- 委員： ・第6回、第7回については、全体会で集まってから分科会ということか。
- 事務局： ・第6回については、事務局からのご案内等、少し全体会をさせていただき、すぐに分科会に入らせていただく予定のため、分科会の時間は約90分取れると考えている。第7回は、シンポジウムの企画案の説明をするが、極力分科会活動に時間を当てていただこうと考えている。
- 委員： ・市民の側からすると、一度集まって、またバラバラになると、ゆっくり時間が取れないという意見をよく聞くので、ご配慮いただきたい。
- 委員： ・「総合計画を協働で実行しよう」となっているが、具体的にはどんなことをイメージしているのか。
- 事務局： ・第4回の市民会議で「実行」テーマとして発表していただいた「教育・子どもをめぐる地域連携のあり方を考えよう」について、深く掘り下げていただく検討作業をお願いしたい。
- 委員： ・アクションプランの見直しや来年度予算につながる活動ではなく、あくまでも、次年度に向けたステップにするものという位置付けなのか。
- 事務局： ・教育・子ども分科会では、先ほどの事業アイデアをいただいたことに加え、「実行」テーマでも同じようなことをされるので、一部予算に反映できるところはしていく。それが翌年度の場合もあるし、翌年度が無理であれば、その次の年に活かしていくという取扱いになる。
- 委員： ・分科会で話をした結果、即予算化できれば良いし、もし出来なければ、翌々年度のアクションプランになるということでも良いということか。
- 事務局： ・その通り。

・議事録の内容については、書面表決とする。

今後の日程

第6回市民会議：11月8日(火)午後7時～

第7回市民会議：12月19日(月)午後7時～

第4回推進会議：12月12日(月)午後7時～

第5回推進会議：1月26日(木)午後7時～

—終了後、提言書提出—